

群 教 セ	G11 - 02
	平14.209集

進路計画を立てる活動を支援する マルチメディア教材の作成

特別研修員 篠田 文信 (藤岡市立北中学校)

《研究の概要》

本研究では、中学2年生の進路学習「進路計画を立てる」活動において、仕事に就くまでの情報を調べる際に活用できるマルチメディア教材を作成した。生徒にとって身近な人々から得た、仕事に就くまでの進路や必要な資格、仕事の内容等の情報を、動画や静止画、文章等により、項目ごとにわかりやすくまとめたものである。この教材で仕事に対する理解が深まり、将来に対する目的意識が持てるよう支援するものである。

【キーワード：進路指導 学級活動 進路設計 マルチメディア】

主題設定の理由

中学校学習指導要領解説総則編には、進路指導において、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行うこととある。

本校における学級活動の時間の進路指導は次のように計画されている。1年生では、自己理解や身近な職業、将来の考え方について学習する。2年生では、興味・関心から自分の進路を考え、実際に職場で仕事を体験したり上級学校を調べたりしていく中で、進路計画の作成と修正をしている。3年生では将来の生活設計の考え方をもとに、進路選択にかかわる情報を収集し、具体的な進路選択を行っている。また、各学年の最後には、進路活動のまとめとして進路計画を立てる活動が計画されている。進路計画を立てるためには、自己の適性や希望とともに、職業についての幅広い情報が必要である。職業の情報を得るためには、学級活動の職業理解の学習や職場体験のほかに、図書室にある進路に関する情報誌から自由に収集したり、社会人を招いて働くことの意義や職業についての話を聞く「社会人から学ぼう」から学習したりする方法がある。

しかし、1年生に将来の職業について考えさせると、メディアや親からの情報などで自分の好きなことを将来の職業として選んでいることが多く、まだ、現実の問題としてとらえている生徒は少ない。2年生になると実際に職場で仕事を体験し、「仕事のつらさや楽しさを知った」、「仕事の内容が意外と多かった」など、体験したことについて充実した様子の感想を書く生徒が多い。3年生では、進路希望調査を実施したところ、将来の職業に対する夢や希望は持っているものの、「どんな高校や学科が自分に合っているのかわからない」、「その職業に必要な資格の取得方法がわからない」など生徒の抱えている様々な不安がうかがえた。また、「社会人から学ぼう」では、社会人講師を招くには限りがあり、生徒が話を聞き逃したりイメージできなかったりすることがあった。また、活字が中心の情報誌からは、内容が読みとれない生徒がいたり、仕事に対する臨場感を味わったりすることは難しい。さらに、時代とともになくなってしまう職業が載っていたり、新たに生まれた職業が載っていなかったりし、生徒の希望に対応することは十分であるとはいえない。そのため、『職場体験』や『社会人から学ぼう』のように、実際に働いている人から、いつでも簡単に情報が入手できるとよい」と、生徒は望んでいる。

そこで、進路計画を立てる場面で、生徒一人一人の興味・関心を高め主体的に学習を進められるよう支援するために、必要とする職業に関する情報を容易に提示できるマルチメディア教材を用いることが有効であると考えた。それは、日々変化する職業に関する情報を、すぐに書き直したり書き加えたりすることができ、生徒に効率よく伝えることができる。また、動画や音声、静止画や文字などを用いて視覚や聴覚から具体的な情報を得ることができるとともに、リンクを設定したページを追うことによって、生徒一人一人がそれぞれのペースで学習を進めていくことが可能となるからである。必要によっては繰り返して同じ場面を見ることができるので、より個々の生徒の理解を深めることも可能である。

以上のように、マルチメディア教材が生徒の進路学習に対する興味・関心を高め、本教材を活用することで職業に関する理解を深め、進路学習に主体的に取り組むことができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

進路計画を立てる場面において、仕事に就くまでの経路や必要な資格とその取得方法、仕事の内容などがわからない生徒にも、目的意識を持って進路計画が立てられるよう支援するため、仕事に関する情報が提示できるマルチメディア教材を作成する。

研究の見通し

仕事の内容や仕事に就くまでのルート、必要な資格と取得方法などの生徒が必要とする仕事に関する情報を、動画や静止画、文字で提示できるよう編集したマルチメディア教材を作成すれば、生徒は興味・関心を持って活用し積極的に情報を収集することができるであろう。

「進路計画を立てる」活動で、「仕事の内容」「仕事に就くまでのルートと必要な資格」「先輩からのアドバイス」が項目別に編集されている本教材を参考にすれば、生徒は仕事に関する理解を深め、将来の職業のことを考えながら、必要な資格や学ぶべき学校などの目的意識を持った進路計画を立てることができるであろう。

研究の内容

1 マルチメディア教材の概要

(1) 基本的な考え方

本教材は、進路計画を立てる学習において、主に、仕事の内容や仕事に就くまでのルート、必要な資格とその取得方法などの知識が不十分な生徒を支援することになる。しかし、ほかの生徒も参考にしたり確認したりすることも考慮に入れ、以下の点に注意しながら、リンクの設定や写真や動画のはり付けが容易な HTML で作成する。

ア 生徒の興味・関心を喚起するようにする

掲載する職種は、生徒が希望する仕事や中学生にとって最も重要と思われる仕事、生徒の親、兄弟、卒業生、地域の人々が働く仕事を中心にする。仕事の詳しい情報は、生徒にとって身近な存在である生徒の親、兄弟、卒業生、地域の人々から収集し、編集したものを示すようにする。進路に関する教材なのでそれぞれの画面の配色を明るくしたり、スクロールしなくてもページ全体が見えるようにレイアウトする。できる限り動画や静止画を取り入れ、視覚的にわかりやすい画面になるよう工夫する。

イ 生徒が主体的に参考にできるようにする

各仕事に関する情報は、事前に行った「仕事に関するどんな情報が欲しいか」のアンケート結果をふまえて、「タイトルページ」、「仕事の内容」、「進路(なるルート)と資格」、「先輩からのアドバイス」の4ページにまとめる。わかりやすく項立てしたり、ページ間のリンクの設定を工夫したりし、生徒一人一人がそれぞれの進度で学習を進めることができるようにする。「タイトルページ」では仕事の内容を簡単に紹介し、リンクで各ページに移動できるようにする。「各仕事のページ」では、得られた情報をまとめたり、写真やビデオで視覚的にもわかるように示したりし、個々の興味・関心に応じて自由に参考にできるようにする。また、常に新しい情報を掲載できるようにする。

ウ 仕事に関する情報収集と編集を容易にする

生徒と教師が、生徒にとって身近な存在である生徒の親、兄弟、卒業生、地域の人々に依頼し、デジタルビデオカメラやデジタルカメラ、原稿等で仕事に関する情報を入手する。数多くの仕事情報が集まるため、各仕事のページは Web ページ作成用ソフトのテンプレートを使用し、誰でも簡単に入力できるようにした。デジタルビデオカメラで入手した情報は、「仕事の内容」「進路(なるルート)と資格」「先輩からのアドバイス」の項目別に編集し、各ページにはり付けた。その際、ビデオのデータ量を小さくすることと Web ブラウザ上で Windows Media Player で見られるようにするために、ファイルは wmv 形式にする。

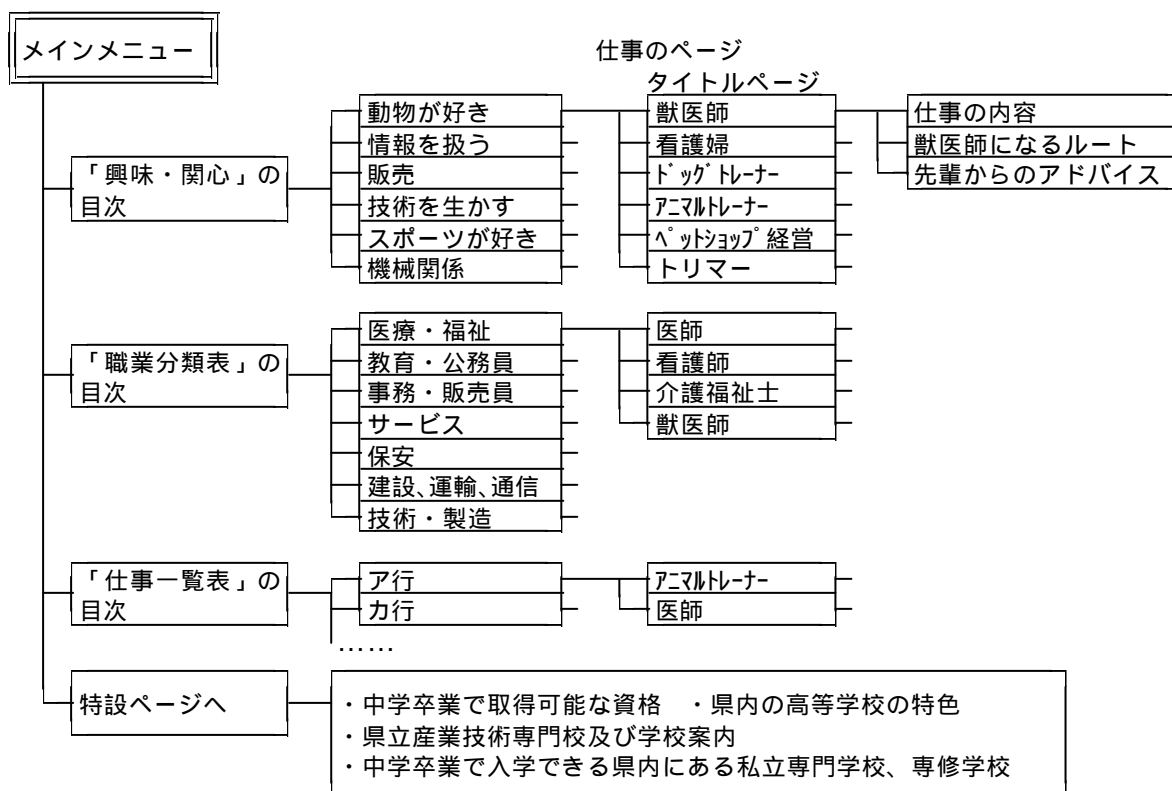
エ 「特設ページ」を設ける

「特設ページ」を設け、中学卒業後の考えられる進路や中学卒業で取得可能な資格等、進路計画の立案で必要と考えられる内容を、参考資料として提示する。生徒は必要に応じて参考にできるようにする。

オ 操作を容易にする。

フレームを利用して目次を設定し、だれでも簡単に目的のページにたどり着けるようにする。

(2) マルチメディア教材の構成



2 「仕事情報ガイド」の内容

(1) 主なページの構成

どのページもフレーム構造を利用し、左側のフレームには目次を配置している。目次は「トップページ」、「メインメニュー」、「『興味・関心』の目次」、「『職業分類表』の目次」、「『仕事一覧表』の目次」、「特設ページへ」とし、全体の構成がわかりやすく、参考にしたい仕事のページに早くたどりつけるようになっている。

図1はメインメニューである。

ここは、進路計画を立てるための導入のページであり、進路計画立案のための重要性を気づかせることができる。また、この教材の内容を知り、生徒が必要な情報を確認できるようになっている。仕事に関する情報が欲しい場合は「仕事のページ」へと移動する。

(2) 仕事のページの探し方

ア 「興味・関心」の目次

これは、将来の職業への希望がまだ決まっていない生徒に対して支援する方法である。自分の職業に対する興味・関心の高い項目を選択すると、それにかかわったさらに細かい項目が表示され、段階を追って徐々に、生徒の興味・関心に最も適していると思われる仕事にたどりつけるようになっている(図2)。興味、関心の観点を「技術を生かして働きたい」、「人と接しながらものを売りたい」、「情報を扱ってみたい」、「機械をいじったり作ったりしたい」、「動物が好き」、「スポーツが好き」、「その他」の7つの分類とし、仕事を関連づけてある。例えば、図2で「動物が好き」を選択すると「命を守りたい」、「人の役に立つ動物を育てたい」、「ペットの美容師」という項目が表示され、さらに選択を進められるようになっている(図3)。

イ 「職業分類表」の目次

生徒が受けた進路適性検査を参考にしやすいように、「医療・福祉」、「教育・公務員」、「事務・販売」、「サービス」、「保安」、

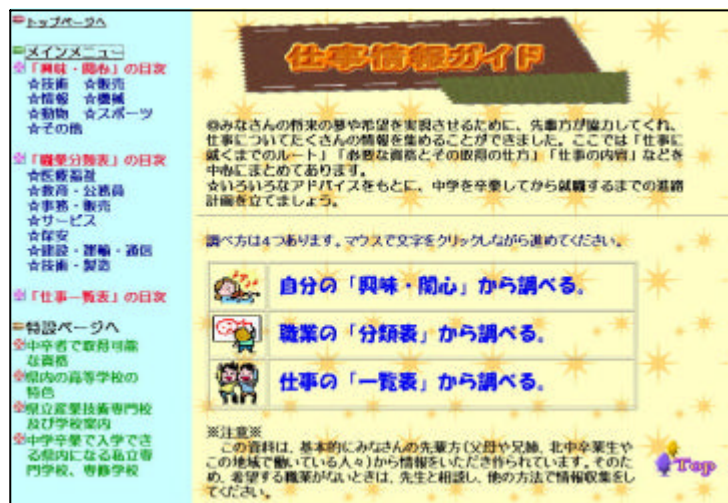


図1 メインメニュー



図2 「興味・関心」の目次



図3 「動物が好き」のページ

「建設・運輸・通信」、「技術・製造」の7項目に分類してある。また、分類に含まれる職業を具体的に示すことで、生徒が分類の内容をつかめるようになっている。分類を選択することで、分類に含まれる職場の一覧が表示され、さらに選択を進めることで各仕事のページが表示されるようになっている。

ウ 「仕事一覧表」の目次

情報が入手できたすべての仕事を一覧表形式に表示し、見たい仕事の情報がすぐに表示されるようになっている。情報が入手できた仕事のすべてが掲載されているため、将来の夢や希望がはっきりしている生徒に対する支援になる。

(3) 仕事のページ

各仕事のページは、「タイトルページ」、「仕事の内容」、「なるルート」、「先輩からのアドバイス」で構成しており、生徒の親や兄弟、卒業生や地域の人々からの得た情報を中心に、進路計画を立てる上で生徒が必要となるであろう情報を簡潔にまとめて掲載してある。各ページとも、明るくすっきりとした見やすい画面構成を心がけた。また、文章を読みとることが不得意な生徒への支援として、随所に写真、動画と音声を取り入れ、仕事の様子がさらに詳しくわかるように配慮した。動画は、画面をクリックするたびに一時停止と再生ができるようになっているが、コントロールキーでも操作ができるようにした。生徒が見たり聞いたりしたいところで自由に止めたり戻したりすることができ、生徒の必要な情報を必要なだけ入手できるようになっている。

ア タイトルページ

仕事の様子がわかる簡単な説明と各ページへ進める項目が表示され、生徒は必要な項目をクリックするとその情報ページへ進めるようになっている(図4)。写真は、少しでも仕事の様子が見えるように、ロールオーバー効果で違う角度の2枚の写真を重ね、表示した。また、画面右下には、同じ職業分類に属する仕事のページや、幼稚園教諭と保育士のように関連する仕事のページへのリンクを設定し、簡単に比較できるようになっている。



図4 獣医師のタイトルページ



図5 「仕事の内容」のページ



図6 動画のページ

イ 「仕事の内容」のページ

実際にそこで働いている保護者や地域の人々に、文章やインタビュー形式で説明をしていたものだものをまとめ、写真が添えてある（図5）。文章を読みとることが得意でない生徒やさらに詳しい内容を知りたい生徒への支援として、写真をクリックすると動画のページへ進めるようにし、実際の仕事の様子が映像と音声でわかるようになっている（図6）。

ウ 「なるルート」のページ

中学卒業から仕事に就くまでの経路を「なるルート」と名付け、この仕事に就くまでに必要な情報を、実際に働いている身近な人々から入手し、まとめて掲載した。「こんな人が向いているよ」では、この仕事に向いているであろう性格を挙げていて、生徒は自分に向いているかどうかを自ら確認することができる。「進路と資格」では、その仕事に就いている先輩の経験や知識をまとめ、入職経路と必要な

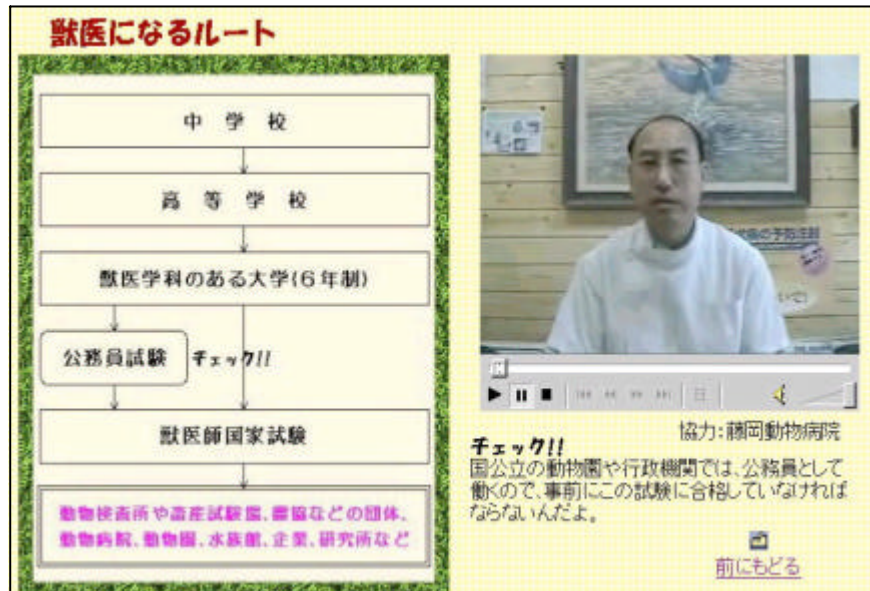


図7 図解獣医になるルートのページ

資格について文章で説明している。さらに「なるルートへの入り口」をクリックすると、映像によって詳しい説明を付けた「図解なるルート」のページへと進むことができる（図7）。生徒は、どういうルートをとればよいのかだけでなく、必要な資格や試験、職場などの情報をも入手することができる。

エ 「先輩からのアドバイス」のページ

既に中学を卒業した人々の経験や知識、進路に関するアドバイス等の内容を中心に構成してある。生徒は、実際に働いている人々の仕事の喜びや苦勞、仕事に就くまでの経験談、高校生や大学生の進路の目標やその進路を選んだ理由等の情報を入手することができる。アドバイスは生の情報として蓄積され、常に最新情報として生徒に伝えることができる。

(4) 特設ページ

進路計画を立てるとき必要だろうと思われる、「中学卒業で取得可能な主な資格」、「群馬県の高等学校の特色」、「県立産業技術専門校及び学校案内」、「中学校卒業で入学できる県内にある私立専門学校、専修学校」を参考資料として掲載する。必要な項目をクリックするとその項目へ進むことができ、生徒一人一人が自由に参考にすることができる。

3 実践の結果と考察

(1) 授業実践の概要

本教材を活用する「進路計画を立てよう」の学習は、「上級学校調べ」の学習を終えたあと、進路学習のまとめの学習として、第2学年の3学期に計画されている。まだ、「上級学校調べ」の学習が終わっていないため、職場体験学習を終えた2年生1クラス(34名)を対象に、希

望する職業に就くための計画を立てることをねらいとして2時間計画で行った。希望の職業がひとつに絞れない生徒は複数の職業について考えてもよいことを伝え、希望する職業名をワークシート（進路計画表「進路マップ」）に記入させた。希望する職業に就くためには「どんな資格が必要なのか」、「どんなルートがあるのか」と「進路の目的」を考えさせ、必要ならば本教材を活用するよう伝えた。

(2) 授業実践

ねらい

生徒一人一人が持っている将来の夢を実現させるためには、どのような進路をとればよいのかを先輩の例や参考資料を通して学び、進路計画を立てる。

活動計画

学 習 内 容	時間	生 徒 の 活 動	指 導 と 支 援
本時の学習の確認をする	15	資料を読みながら、進路計画の大事な点をまとめ、発表する。 資料から、進路設計の大切さや、希望職業を実現させるためには、そこに至るまでの道筋と希望職業の求める能力や適性、必要な資格などを知る必要があることを知る。	「進路設計の大切さ」、「希望職業を実現させるための学習の大切さ」等が読みとれる資料を提示し、進路計画を立てる興味・関心を高めさせる。 本時の学習内容について知らせる。
希望する職業に就くまでのルート(道筋)を考える	15	希望する職業名とその内容、その職業に就くまでのルート、その仕事に必要な資格やその取得方法等を、ワークシートに記入する。	仕事の内容、資格とその取得方法、ルート等は、知っている範囲で記入するよう伝える。
希望する職業について調べる	30	希望職業について、「仕事情報ガイド」や「なるにはブック」、今までに収集した資料等を使って調べる。	自分の進路を実現させるためにいろいろな資料から調べさせる。資料は、今までに学習し収集してきたものや資料集「仕事情報ガイド」や「なるにはブック」を使用してもよいことを伝える。 「仕事情報ガイド」を使用する生徒には使用方法を指導する。
進路マップを再確認する	25	自分の希望や能力、適性、先輩からのアドバイス等の今まで収集した資料を参考に、自分の進路計画を再確認し、進路マップを修正する。	自分の希望する職業に就くまでの道筋や必要な資格とその取得方法目的等を中心に記入させる。
進路計画に対する努力点を考える	15	「進路マップ」に対して努力していきたいことを考え、プリントに記入する。	進路計画を単なる夢や希望で終わらせないように、自分が今からやっておかなければならないことを認識させる。

(3) 授業実践の結果と考察

ア 『仕事に関する情報を、マルチメディア教材を用いて仕事に関する情報を取り入れることは、学習内容の興味・関心を高めることができたか。』

「希望の職業に就くためのルート」、「必要な資格」、「進路の目的」等を記入させた後、本教材や仕事の情報が載っている本を参考に調べて

記入してもよいことを伝えた。31名の生徒が本教材を使用し、仕事のページを参考にしていた(表1)。情報誌だけを参考にした3名の生徒は、

「パソコンを起動させるのが面倒」と答えていた。本教材と仕事情報誌の両方を参考にした生徒に「進路計画を立てる際に、特に本教材を参考にしたか」と質問すると、30名の生徒が参考になったと答えている(図8)。「とても参考になった」理由は、「知っている人が出てきて詳しくアドバイスしてくれ、身近に感じることができた」、「ビデオの説明があり、本にはない楽しさがあった」、「聞き逃したところをもう一度聞くことができ、詳しく説明してくれた」、「調べたいことが簡単に見つかったたくさんの仕事の情報を参考にすることができた」、「専門家が専門的な

アドバイスをくれた」などの理由をあげた。「参考になった」と答えた生徒は、「参考になったが、仕事の情報がちょっと少なかったことが残念」、「希望する職業のページがなかったが、近い職業の情報が参考にできた」、「他の仕事の情報が知りたい」、「もっと詳しく知りたい」などの理由をあげていた。なお、参考にならなかった生徒は「参考にする情報がなかった」と答えている。生徒は必要な情報だけでなく、少しでも多くの情報を得ようと進んでページを開き、動画を止めたり戻したり、あるいは隣の生徒に写真の説明したりしながら活用している姿が見られた。動画や静止画などの画像や身近な存在である人々のアドバイスが仕事への興味・関心を高め、さらに積極的な学習に効果的であったと考えられる。

イ 『仕事に関する理解が深まり、目的意識を持った進路計画を立てることができたか。』

本教材を活用する前の進路マップへの記入状況から、「資格」、「進路」、「目的」がすべて正しく記入できた生徒は1名であった。特に、資格の種類や資格が取得できる学校が記入できなかったり間違っていたりする場合が多かった。そのため、本教材の「なるルート」のページを開き、参考にしている生徒が多かった(図9)。自己の進路計画を再確認する際に本教材を参考にした結果、

表1 本教材の使用状況(対象34人)

本教材だけを使用した生徒	5人
情報誌だけを使用した生徒	3人
両方を使用した生徒	26人

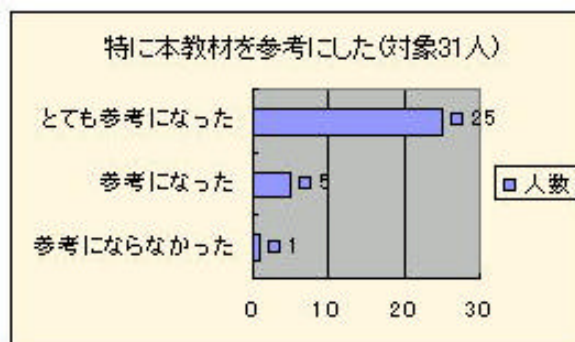


図8 アンケート結果

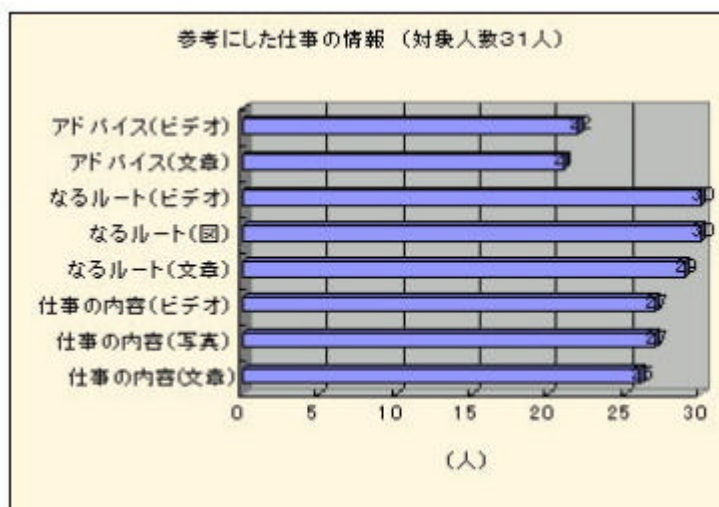


図9 アンケート結果

追加あるいは訂正した箇所の数と人数を調べると、表2のような結果であった。「保育士の資格で幼稚園の先生にもなれると思っていた」、「学校で資格を取得しなくても実務経験を積めば資格が取れることを知っ

表2 訂正の個数と人数(対象31人)

個 数	1	2	3	4
人 数	5	16	7	3

た」、「獣医大学が6年制であることを知った」、「美容院を開くには管理美容師の資格がないといけなことがわかった」など、生徒は、今までの仕事に関する知識に新しい知識として積み重ねることができ、仕事に関する理解が深まったことがわかる。また、教材を活用する前に進路マップを完成させることができなかった30名の生徒は、本教材を活用することで進路マップを完成させることができた。特に、獣医師になるルートがわからなかった生徒A(図10)の授業後の感想は「自分の夢を実現させるためにはいろいろな試験に合格しなければいけないことがわかった」と書いてあった(図11)。今後の進路に対して目的を持つことができ、また、仕事に就くまでの見通しを持った進路計画を立てることができた。



図10 生徒Aの修正前の進路マップ

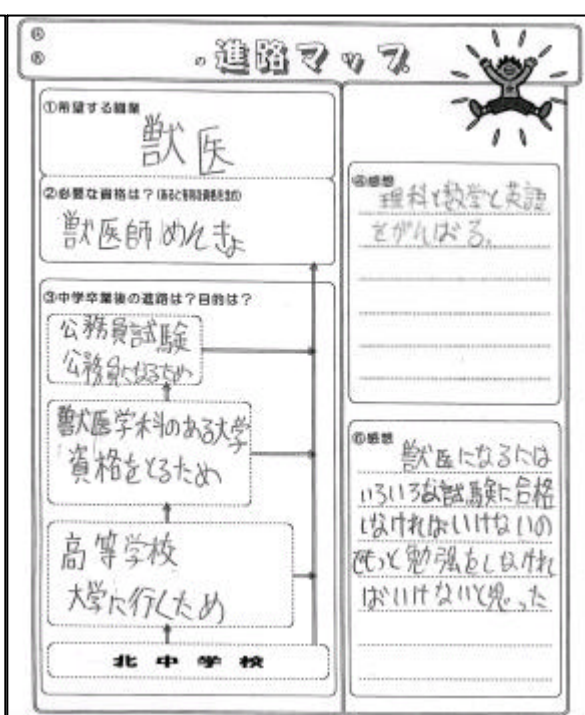


図11 生徒Aの修正後の進路マップ

研究のまとめと今後の課題

本研究では、進路計画を立てる活動において、主に、将来就きたい職業はあるが仕事に就くまでの経路や必要な資格とその取得方法、仕事の内容などがわからない生徒にも、進路計画を立てることができるよう支援するための教材作成を目的にしてきた。本教材の作成と活用において次のような成果があったと考える。

生徒がふだん知らなかった仕事の内容や、その仕事に就くための資格と取得方法、仕事に就くまでのルート等の仕事に関する情報を、生徒にとって身近な存在である親や兄弟、地域の方々から収集し、動画や静止画、文字等で編集したことが、生徒の興味・関心を高め、本教材が進路計画を立てる際の重要な参考資料となることができた。

教材を活用することにより、生徒一人一人が自分の進路希望や興味・関心に応じて早く簡単に情報収集することができるようになったため、複数の進路を設計することも可能になっ

た。また、将来への目標がはっきりし、ふだんの生活から進路を意識する生徒が増えるなどの効果があった。

また、今後の課題として次のことが考えられる。

教材に取り入れた仕事は、生徒の身近にある仕事を中心に作成してきたため、職種が限られてしまった。また、生徒の親や兄弟、地域の人々からの情報は二百通を越えたが、それでも生徒の希望する仕事の中には情報を入手することが困難なものがあり、すべての生徒の希望に対応することができなかった。今後、新しくたくさんの情報を提供するために、これからも情報を入手し、ストックしていく必要がある。

< 参考・引用文献 >

研究報告書 第203集 群馬県総合教育センター（2002）
明るい学級 1年 2年 3年 群馬県中学校長会編（2002）

< 商標について >

- ・ Microsoft Internet Explorer、Windows Media Player は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標又は商標です。